

肝炎ウイルスキャリアの妊婦に対する具体的支援はじまる

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

■ 日 時 令和2年2月15日（土） 午後2時～午後3時45分

■ 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

■ 出席者 27人

渡辺健対協会長、岸本対策委員長

芦田・植木・岡田・岡野・孝田・陶山・瀬川・谷口・前田和・前田直・

松田・丸山・満田・三好・村脇・安田・山下各委員

県健康政策課がん・生活習慣病対策室：高橋室長、岡係長、宮脇保健師

オブザーバー：林米子市保健師、松本岩美町保健師

健対協事務局：谷口事務局長、岩垣課長、澤北主事

【概要】

- ・平成30年度肝炎ウイルス検査受診者数は5,521人で、受診率は2.7%、HBs抗原陽性者は55人（陽性率1.0%）、HCV抗体陽性者は18人（陽性率0.3%）である。
- ・肝炎医療コーディネーターを養成する研修会を実施し、新たに46名の受講者に認定証を交付し、18名の肝炎医療コーディネーターの認定期間を1年更新した。
- ・平成30年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査結果、肝炎ウイルス検査から肝臓癌が1名であった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が3名、肝臓がん疑いが1名であった。
- ・国立がん研究センターが平成30年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、平成30年は72.2（昨年86.0）で、過去最も低い値（良

化）を記録。都道府県別順位は平成29年度のワースト2位（46位）からワースト18位（30位）と改善。

- ・国の「肝がん・重度肝硬変治療促進事業」が一部改正され、令和2年1月1日から適用される旨の通知があった。肝がん・重度肝硬変治療患者へ交付する参加証の交付要件が緩和された。このことを受けて、県は要綱の一部改正を行い、リーフレット・ポスターを関係先に送付する予定。
- ・肝炎ウイルス検診受診券の様式について、フォローアップの同意を得るための改正案が県よりが示され、概ね案通りで了承が得られた。
- ・肝炎キャリア妊婦に対する支援について、運用のフロー図が示され、当委員会でも概ね了承が得られた。
- ・NBNC型肝臓がん対策について、NBNC HCCの危険因子は生活習慣病と考えられるが、HCCサーベイランスの対象患者が絞りにくく、糖尿病患者の中で、Fib-4

indexを指標に肝線維化進展例を囲い込んだHCCサーベイランスについて検討された。

- ・精密検査結果のC型肝炎治療後のウイルス消失例の取り扱いについては「健康指導対象者」とすること、肝がんの発症者は継続して医療を受けていることから、今後の方針または判定は「その他」とすることも確認された。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

本日は、寒い中当委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

肝臓がん対策は、ウイルス性感染が中心であったが、NBNC型肝がんが増えており、アルコール、糖尿病等生活習慣病が原因となった肝がんの対策が今後の課題である。

〈岸本対策専門委員長〉

本日は、寒い中当委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

B型、C型肝炎は患者を発見し治療まで結びつくと完全に治癒およびコントロールできる時代となった。しかし、鳥取県の場合、肝臓がん死亡率が全国でも高い状態である。本委員会は平成7年度から開催されているが、いまだに十分な効果をあげていないのではと感じているので、一層、今後、努力が必要と思う。よろしく願います。

本日はたくさんの議題が準備してあるが、十分

な議論をお願いする。

報告事項

1. 平成30年度肝炎ウイルス検査実績報告並びに令和元年度事業実績見込み及び令和2年度実施計画について：

宮脇健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

(1) 平成30年度肝炎ウイルス検査の結果について

平成30年度は19市町村で実施し、対象者数207,065人（29年度214,776人）のうち、受診者数は5,521人で、受診率は2.7%で、受診者数は前年度に引き続き減少傾向である。

検査の結果、HBs抗原陽性者は55人、HCV抗体陽性者は18人で、HBs抗原陽性率1.0%で、平成29年度に比べ0.2ポイント減であった。また、HCV抗体陽性率0.3%で平成29年度と同率であった。

要精検者72人のうち精検受診者は45人であり、精検受診率は62.5%で、平成29年度に比べ9.3ポイント減であった。精検の結果、肝臓がんが1人発見された。71.1%は無症候性キャリアであった。

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は18市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,869	965	138 (14.3)	10 (1.1)	5 (0.5)	4 (0.4)
C型肝炎ウイルス陽性者	740	381	72 (18.9)	7 (1.8)	7 (1.8)	5 (1.3)

肝臓がん報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

(3) 令和元年度実施見込み及び令和2年度実施計画について

令和元年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は19市町村実施で5,399人、市町村単独事業は5町実施し564人の見込みである。

令和2年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は19市町村実施で5,477人、市町村単独事業は5町実施で567人を計画している。

2. 平成30年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査結果について：孝田委員

(1) 平成30年度肝炎ウイルス検査から肝臓癌が1名であった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が3名、肝臓がん疑いが1名であった。

(2) 平成29年度肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑いと診断された者は発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が2名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が7名で、そのうち、2名は死亡した。

(3) 平成7～28年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、30例が確定癌であり、そのうち27例は死亡、生存中は3例であった。また、平成10～28年度定期検査確定がんが157例で、そのうち119例（他病死を含む）が死亡した。定期検査発見がん患者はウイルス検診発見がん患者に比べて予後は良好であった。しかし、一部には進行がんで発見された症例もあった。また、定期検査発見がんの5年生存率は40%とまだ充分ではない。

「肝臓がん発見がん患者個人票」の様式に

PIVKAの記入欄を追加してほしいという話があった。

3. 令和元年度肝炎ウイルス検査の結果について（令和元年12月末現在）：

宮脇県健康政策課がん・生活習慣病対策室課保健師

保健所においては、令和元年度実績は、令和元年12月末現在でB型肝炎検査49件、C型肝炎検査48件で、そのうちB型陽性者、C型陽性者ともに見つからなかった。

医療機関においては、令和元年度実績は、令和元年12月末現在でB型肝炎検査は医療機関76件、検診機関208件、C型肝炎検査は医療機関で77件、検診機関208件で、そのうちB型陽性者が3人、C型陽性者は1人であった。近年、受検者が減少傾向にある。

初回の精密検査の費用の助成は、令和元年度より、職域検診で発見された方も助成対象となったが、職域の検査で陽性者となり申請した人はいなかった。令和元年度は令和元年12月末現在で6人であった。低所得者に対する定期検査助成を受けた方は、令和元年度は令和元年12月末現在で14人であった。

4. 令和元年度肝炎治療特別促進事業の認定状況について：

岡山健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
令和2年2月現在での受給者は、B型肝炎は856件、C型肝炎は1,102件であった。3月にB型は更新申請が120～130件あるため、B型は約980件になる見込みである。年次推移から、B型・C型肝炎ともに新規認定者は減少傾向にある。

5. 令和元年度鳥取県肝炎医療コーディネーター養成研修実施状況について：

宮脇県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

肝炎ウイルス検査の受診勧奨やキャリアや患者

の方に対する適切な保健指導、患者本人や家族等からの肝疾患に関する各種の相談を受けることができる人材として、「鳥取県肝炎医療コーディネーター」を養成しており、今年度は研修会を米子で9月1日に開催した。

46名の新規受講者に認定証を交付した。18名の肝炎医療コーディネーターの認定期間を1年更新した。職種別は、医師14名、看護師37名、保健師45名、薬剤師13名、臨床検査技師3名、臨床工学技士1名、管理栄養士1名、患者会1名、その他10名であった。

今後、職域検診との連携が課題という話があった。

6. 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の一部改正について：

岡山健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
令和元年12月16日付で厚生労働省健康局長より、各都道府県担当課宛てに「肝がん・重度肝硬変治療促進事業」が一部改正され、令和2年1月1日から適用される旨の通知があった。これを受けて、県内の保険医療機関（44病院）へはFAXにて周知を行った。

令和2年2月中に、県は、「肝がん・重度肝硬変治療促進事業に関する事務等及び様式を定める要綱」を一部改正を行い、併せてリーフレット・ポスターを関係先に送付する予定である。

(改正点)

- ・県から肝がん・重度肝硬変治療患者へ交付する参加証の交付要件を緩和。
- ・入院記録票または入院記録補助票の記載は、指定医療機関とされていたが、保険医療機関（指定医療機関及び指定医療機関以外の医療機関）において記載して交付する。
- ・なお、保険医療機関が交付されない場合は、入院医療記録票を患者が作成することができる（ただし、領収書及び診療明細書等の添付が必要）。

7. 令和2年度肝炎・肝がん関連事業の概要について：

岡山健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師長

○肝炎のウイルス検査の実施、受診勧奨、陽性者のフォローアップ等は健康増進法により、市町村の業務とされている。

○肝がん死亡率が全国に比べ高く、かつ、ウイルス検査の陽性者の割合も高いと言われる本県では、市町村のみならず、県においても様々な肝炎対策を実施している。

令和2年度は令和元年度の肝炎・肝がん関連事業を継続実施すること。また、令和2年度からは、初回精密検査費助成の対象を妊婦健診、手術前検査にて陽性となった者にも拡充されることの話があった。

8. その他

(1) 「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部改正について：

岡山健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
県は、「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」を一部改正し、令和2年4月1日から施行する予定である。主な改正点は以下の通りである。

(主な改正点)

- ・夏部会において的野委員より提案があった治療受給者交付申請者へ肝炎検査に関する調査項目を追加する。
- ・肝炎治療受給者交付申請に必要な診断書の様式について、発売中止となった治療薬を削除。
- ・肝炎治療費の償還払い申請に関する必要な添付書類に係る条文の一部改正。

委員より「肝炎治療受給者証」の治療内容のインターフェロンフリー治療のレジンバスビル・ソホスビル配合錠が令和2年4月から発売中止ということを知っているという話があった。よって、この箇所は削除することとなった。

(2) 平成30年75歳未満がん年齢調整死亡率：

高橋県健康政策課がん・生活習慣病対策室長 国立がん研究センターが平成30年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、平成30年は72.2 (昨年86.0) で、過去最も低い値 (良化) を記録。都道府県別順位は平成29年度のワースト2位 (46位) からワースト18位 (30位) と改善。

女性の死亡率は改善し51.7となり、全国値56.0以下 (良化) となった。

肝臓がんの男女計の死亡率4.4 (33位)、男性7.3 (27位)、女性2.5 (44位) で、他の部位では男性が悪く、女性は全国並みであるが、肝臓がんについては、女性の死亡率が全国でも悪い結果となった。

協議事項

1. 肝炎ウイルス検診受診券の様式の変更について

市町村が実施する肝炎ウイルス検査に関しては、精密検査の結果で「健康指導対象者」となった者に対して定期検査を受診するようフォローアップを実施しているが、書面で同意を取得していなかった。

このたび、県よりフォローアップの同意を得るため、肝炎ウイルス検診受診券の様式の改正案が示された。様式は、概ね案通りで了承されたが、追加となった文章のうち「健康指導対象者」が分かりにくいので、県健康政策課でもっとわかりやすい文言に変えるよう検討して頂くこととなった。また、肝炎ウイルス検査判定結果が1異常なし、2健康診断対象者となっているところについて、精密検査の結果も同じく「健康指導対象者」で紛らわしいため、要精密検査等、別の文言にした方がよいという意見があった。

また、肝炎ウイルス検診受診券の様式の改正に伴い、「鳥取県肝炎ウイルス検診・肝臓がん検診等実施要領」も一部改正し、令和2年4月1日から施行する予定である。

2. 肝炎キャリア妊婦に対する支援について

妊婦健診において肝炎ウイルス陽性であった者の精密検査結果については把握できていなかった。本委員会の過去2回の会議において、肝炎キャリア妊婦の精密検査結果を把握するための様式等について、協議を行ってきた。

この度、鳥取県健康対策協議会母子保健対策専門委員会において運用のためのフォロー図案が示され、概ね案通りで了承が得られており、当委員会においても概ね了承が得られた。

ただし、様式1、2号の記載において、転記は記載間違いがあるので、複写を使用した方がいいという意見があった。

3. NBNC型肝臓がんについて

鳥取県健康対策協議会「疾病構造の地域特性対策専門委員会」において、村協委員を中心として「鳥取県から進行肝細胞癌を撲滅するための取り組み」について調査研究が行われている。岡野委員より、NBNC (non-ALD) HCCが増えている。NBNC HCCの危険因子は、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病と考えられるが、HCCサーベイランスの対象患者が絞りにくい。糖尿病患者の中で、Fib-4 indexを指標に肝線維化進展例を囲い込んだHCCサーベイランスができないだろうかという話があった。

糖尿病専門医の協力をお願いしたいということで、鳥取県西部医師会で開催された「かかりつけ医依存症対応力向上研修会」「糖尿病研修会」において、講演を行っているという話があった。

4. 精密検査結果における「C型肝炎治療後のウイルス消失例」の取り扱いについて

市町村においては、精密検査の結果で「健康指導対象者」となった場合に定期検査の勧奨を行っている。このうち、C型肝炎治療後ウイルス消失例については、ウイルス消失後も肝臓がんに行進するリスクは残るため定期検査が必要とされていることから、「健康指導対象者」とすることが確

認された。また、肝がんの発症者は継続して医療を受けていることから、今後の方針または判定は「2 その他」とすることも確認された。

5. その他

(1) 岡田委員より、鳥取県医師会においては、令和2年4月より研修会等の受講受付方法（生涯教育単位管理）が変わり、従来、紙媒体で行っていた受講確認（名簿への署名）を、電子媒体を利用したICカードもしくはQRコードを専用機器で読み取り受講管理を行うことになる。令和元年度中に周知文書を全会員へ発送予定。開始時と終了時の受付を行うので、時間設

定を設けるのか、また、鳥取県医師会非会員の取り扱いをどのように行っていくのか、部会ごとに意見を伺い、総合部会で方向性を決めたいという話があった。

・非会員の先生方については、鳥取県医師会員になっていただくよう推奨していこうという話があった。

(2) 岡 県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長より、学会発表等で各検診発見がん確定調査の個人情報提供を受けられたい時は、鳥取県知事宛に個人情報提供申請書を提出していただくようにという話があった。

肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和2年2月15日（土）
午後4時～午後5時45分

場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

出席者 111名
(医師：105名、保健師：3名、検査技師：3名)

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会委員長 岸本幸廣先生の座長により、日野病院組合日野病院院長 孝田雅彦先生による「肝疾患対

策のA to Z（一般診療から行政対策まで）」の講演があった。

症例検討

満田朱理先生の進行により、3地区より症例を報告して頂き、検討を行った。

1) 西部症例（1例）：

山陰労災病院 西向荣治先生

2) 中部症例（1例）：

鳥取県立厚生病院 三好謙一先生

3) 東部症例（1例）：

鳥取県立中央病院 岡本敏明先生